

令和 6 年度 7月号
学校だより



横浜市立今宿小学校

<今宿小学校学校教育目標>

- ☆☆育てたい「いまじゅくの子」☆☆
- い ○いきいきとした心と体をつくる子(体)
 - ま ○学びをいかそうとする子(知)
 - じ ○自分とみんなを大切にする子(徳)
 - ゆ ○ゆめをもち人の役に立とうとする子(公)
 - く ○くらしをよりよくしようとし世界に目を向ける子(開)



今宿小学校
WEB ページ

雨、いろいろ 感じ方、いろいろ

校長 藤巻 孝之

こな雪、つぶ雪、わた雪、ざらめ雪、みず雪、かた雪、こおり雪…。ちょっと昔の歌の歌詞です。

6月 21 日、例年より2週間ほど遅い梅雨入りとなりました。桜の開花も遅かった今年、自然の気まぐれか、それとも世界規模の環境の変化によるものなのか、気になるところです。「ようやく梅雨入り」「ついに梅雨入り」「とうとう梅雨入り」。みなさんはどのような思いで長い雨の季節を迎えられたでしょうか。

日本は自然の姿を情緒豊かに表現することに長けていると感じます。冒頭にあげた季節外れの雪の種類ですが、そういえば雨にもさまざまな種類、情景を表した言い回しがあるなど驚かされます。一説によると400以上の表現があるとか。同じような雨の降り方でも、その時々で微妙な違い、繊細な違いを感じたり、伝えたりしたのでしょ。

「小雨(こさめ)」。よく耳にする、長くは降らない少しの雨です。「霧雨(きりさめ)」。これもなじみがあり、霧のように細かい雨を表現しています。どちらも弱い雨の様子を表していますが、その間の微妙な違い、繊細な違いを表す雨をご存じでしょうか。「疎雨(そう)…まばらにぽつぽつと降る雨」「細雨(さいう)…しとしと降り続く雨」「微雨(びう)…急に降り出すがすぐに止み濡れてもすぐに乾く程度の雨」「小糠雨(こぬかあめ)…音を立てずに静かに降る糠のようなとても細かい雨」「天泣(てんりゅう)…空に雲がないのに降ってくる細かい雨」。弱い雨だけでも調べてみると面白いですし、雨の見方や感じ方が変わってきます。聞こえてくる雨音も含め、雨が降るのを楽しみに感じられそうです。ただ「ゲリラ豪雨」や激しい雨を長時間降らせる「線状降水帯」など災害をもたらす可能性がある雨は勘弁してほしいものです。

一つの出来事、事象について、人それぞれ受け止め方や感じ方は違います。それが尊重される場面はたくさんあります。また共通理解、合意形成が必要な場面もあります。子どもたち一人ひとりの思いが大切にされる場面、譲り合ったり、折り合いをつけたり、認め合ったり、わかり合ったりしながら、友だち、学級、学年、そして学校全体が一つになる場面。その時々で子どもたちが輝く「居場所づくり」「仲間づくり」「学びづくり」を目指したいと思います。

元気が一番!!よろしく願いいたします。

【 「今小元気っ子プラス」 始動! 】

保護者や地域の方々子どもたちの学びに参画し、サポートしていただくための機能「今小元気っ子プラス」をスタートしました。これは横浜市立学校に設置義務がある地域学校協働本部の今宿小バージョンの取組です。すでに5組や3年生の校外学習、1年生の生活科など普段の学習にボランティアとして保護者の方々にかかわっていただきました。これまでのボランティア活動を継続しつつ、今後はすぐ一層を通じて活動を拡大していく予定です。子どもたちの姿を目の当たりにしながら、一緒に子どもたちの学びを支えていきましょう。